

宮本常一関係資料（平野）

《宮本常一記念館学芸員 板垣優河》

周防大島町平野に所在する宮本常一記念館では、本町出身の民俗学者・宮本常一ゆかりの文書約6千点、蔵書約2万点、写真約10万点、書簡類約8千点を保管している。このうち文書414点が、令和4年3月4日に「宮本常一関係資料」として山口県有形文化財（歴史資料）に指定された。

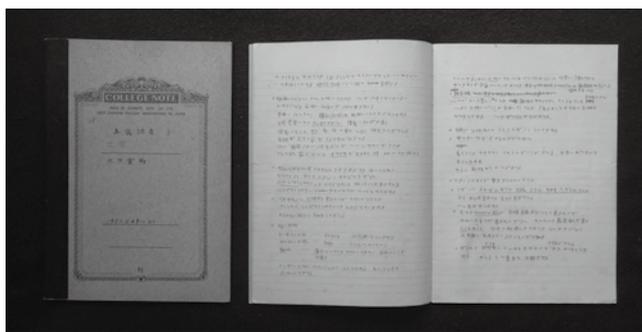
宮本は明治40年（1907）に旧家室西方村に生まれた。大阪で郵便局員や小学校教員を経た後、昭和14年（1939）に渋沢敬三が主宰するアチック・ミュージゼアム（後の日本常民文化研究所）に入所し、全国各地で民俗調査を行う。戦後は全国離島振興協議会や日本観光文化研究所、日本民具学会の設立にも携わり、昭和56年に73歳で没した後、勲三等瑞宝章を受章した。

は、新潟県佐渡、奈良県吉野西奥、兵庫県淡路島、山口県見島、長崎県対馬・志岐・五島、大分県姫島などの調査ノートである。これらは、現地調査に臨んで宮本が作成した聞き書きやスケッチ、古文書類を筆写したものからなる。宮本の実直な調査姿勢と優れた調査能力をうかがうことができる。当館ではこれらノートの翻刻作業を進め、『宮本常一農漁村探訪録』として刊行している。

このほか特筆される指定資料には、宮本の代表的著作『忘れられた日本人』のもとになった聞き書き、『日本の中央と地方』や『私の日本地図』の著作原稿などがある。さらに、病氣療養時代の『我が行く道』といった歌集も、宮本の内面を理解するうえで重要だ。

しばしば宮本の調査姿勢は、「あるく・みる・きく」と表現される。戦前から戦後へ

とわが国の生活環境が大きく変化するなかで、山野河海でのさまざまな営みをこれほどまで丹念に記録した人はほかにいない。その極めて現場主義的な態度から生み出された「宮本常一関係資料」は、生きた民衆の知恵や技術をいまに伝える至上の民俗伝承記録といえることができる。



▲長崎県五島の調査ノート

こんにちは！食推です！

周防大島町食生活改善推進協議会 東和支部 松田 道子

5月19日、2年ぶりに町総会ならびに中央研修会が開催されました。推進員全員の参加は叶いませんでしたが、各支部から役員が集まり、久しぶりに他支部の方との交流ができました。昨年度の事業報告や今年度の計画等について議事を行い、総会行事の後には研修会がありました。山口県立総合医療センターの研修医の先生から「動脈硬化の予防」についてご講演をいただきました。周防大島町では地域によっては動脈硬化による心疾患や脳血管疾患になった時に、治療を受けられるまでに時間がかかってしまうことが考えられるというお話から、普段から食事や運動などの生活習慣を改善することや薬を正しく飲むこと、禁煙、健診を受けることなど、“予防”がいかに大切かを教えていただき、大変勉強になりました。

新型コロナウイルスの影響はまだまだ続きそうですが、推進員で力を合わせて、今できる活動に取り組んでいこうと気持ちを新たにしました。



▲総会の様子